

トリプルエーマシン

粉体機器の海外市場におけるマーケティングやコンサルティングを主力業務とするトリプルエーマシン（東京都西東京市、石戸克典社長、080-3502-19274）は日本の機器メーカーの対米輸出支援を本格化させる。5月初旬にシカゴで開催した粉体工業展2008に日清エンジン・アリンク、松島機械研究所など日本企業6社を紹介する一方、同社シカゴ拠点のショールームでラボ機によるテスト依頼に対応するなど、日本からの直販に付随するあらゆるサービスを提供する。また逆に米国からの機器、部材の輸入販売でも実績をあげており、これらをベースに2〜3年以内に米国でのビジネス基盤を確立したい（石戸社長）としている。

専門ノウハウ駆使

トリプルエーマシンは日本の粉体機器・装置メーカーによる対米直接販売を支援するマーケティングおよびコンサルティング会社として、粉体関連企業に在籍した石戸氏が07年4月に設立。従来商社経由で輸出していた粉体機器はニッチで専門性を必要とする特殊市場といえる。しかし近年は

粉体機器 対米輸出支援を本格化

インターネットで直接メーカーに引き合いがくるケースが増えるなど、メーカーと商社間にズレが生じている（同）との認識から、シカゴにあるパートナー会社AAAマシーン社と連携して、オンリーワン技術の日本製粉体機器の米国向け直接販売を支援することにした。

現在、マツホーの機械式

粉砕機、エクセンのエアノックカー、日清エンジン・アリンクの分級機、三井鉱山の攪拌式粉砕機、NBCのフイルター、フルード工業のロータリーバルブ、アコーの除じん機、日本ニューマチック工業の表面改質機、菱興産業の空気輸送装置などを紹介している。

展示会ブース確保

また米国で開催される粉体工業展にも積極参加、ブースを確保して日本の技術や機器・装置を紹介してい

る。昨年4月のアトランタに続いて、今年5月にシカゴで開催された米国最大の粉体工業展示会でも同社の協力によって日本のメーカー6社が1つのブースで共同出展したが、その後のフォローアップも行っていった。また2年後の10年開催の展示会のブースもすでに確保しており、参加企業を募っている。

機器類など導入も

展示会に加えて、シカゴ拠点には倉庫兼ショールームを設けており、ここには日清エンジン・アリンクの精密空気分級機やオイルフリーコンプレッサー・粒度測定装置、マツホーのエルボージェット、アコーの除じん機を設置して、テスト依頼に対応している。

これと逆に米国をはじめとする海外から日本への機器・装置の導入支援や材料の直接販売も手がけており、順調に実績を積んでいる。

シカゴの粉体工業展でのブース風景（上）と出展企業の一社である松島機械研究所のバルスレクター式レベル計

